

KPI 自己評価表

WG-A

取組事業	活動指標 (KPI)	事業活動状況	自己評価
産官学連携事業	産官学共同研究について、最終年度までに新たに 10 件以上を実現する。	<p>地域内での産官学共同事業を推進する助成を実施した。また、産官学連携による共同研究・共同事業のきっかけづくりとして、加盟大学が取り組む研究や教育を平易な表現で紹介をするハンドブックを作成し、紙媒体及び協議会 HP を通じた電子媒体として情報発信した。</p> <p>本年度の成果として、2019 年度より累計で 6 件の共同研究・共同事業を実現できたことから、KPI に対する自己評価は「A」とする。</p>	A
インターンシップ・採用活動支援事業	・インターンシップ・採用活動支援事業への参加企業数(延べ数)・参加学生数(延べ数)を 2019 年度の参加実績を基準に 10%以上の増加を毎年維持する。	<p>地域内企業の採用活動の強化を目的にした産官学連携セミナーや情報発信用ポータルサイトの作成及び、学生に対する就職ガイダンスや合同説明会などのイベントを実施した。また、地域の外部団体と連携して事業を推進する体制を整えることができた。</p> <p>参加企業数延べ 81 社(2019 年度比-19.8%)、参加学生数延べ 47 人(2019 年度比-64.1%)であり、一部の事業で中止や合同開催されたことが減少の要因である。企業数、学生数ともに 10%以上の増加を維持できていないことから、KPI に対する自己評価は「B」とする。</p>	B
UIJ ターン推進事業	UIJ ターン推奨事業として、滋賀県外居住者の滋賀県内企業や事業所への本プラットフォーム連携機関を通じた雇用について、最終年度までに年間 20 名以上を実現する。	<p>びわ湖東北部地域内への UIJ ターンを促進するため、地域内の大学生や滋賀県内外の企業を志す方を対象に、びわ湖東北部地域の課題解決を目指す社会起業家の育成を図る基礎講座やフィールドワークなどを実施した。</p> <p>KPI について、年間 30 名の雇用(見込みを含む)が確認できた。この雇用人数の内訳は主に県外に居住する新規学卒者ではあるが、23 名は滋賀県外からびわ湖東北部地域内への雇用である。地域内への流入に大きく寄与できていることから自己評価は「A」とする。</p>	A

取組事業	活動指標 (KPI)	事業活動状況	自己評価
生涯学習拠点整備事業	地域住民向けの公開講座を毎年 10 講座以上開講する。	公開講座教養コース 1 事業 10 講座、専門コース 3 事業 14 講座の合計 4 事業 24 講座を開講した。参加者は対面 698 名（前年度 489 名）、オンデマンド視聴 79 名（前年度 4,609 名）であった。本年度は全講座対面（プラスオンデマンド）で実施することができ、目標とする 10 講座以上開講できたため自己評価を「A」とした。	A
地域住民に向けた健康増進支援事業	最終年度以降も継続可能な地域住民向けの健康イベントを 5 件以上定着させる。	本年度は 5 事業において 14 件の取組みを実施した。（「中高年の健康ウォーキング」5 件、「光と色でつながるびわ湖東北部地域の健康づくり」、「認知症をめぐる共生社会構築分野」各 3 件、「モルックを中心にしたユニバーサルスポーツ体験会&モルック大会の実施」2 件、「ホールの子リーチ事業」1 件）内 12 件が地域住民向けであった。目標の 5 件以上の実施となったため自己評価を「A」とした。	A
国際交流促進事業、まちづくり支援事業、びわ湖周辺環境整備事業	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。	本年度は、「災害に強いまちづくりプロジェクト」7 件、「地域課題解決に取り組む学生プロジェクト」8 件、「まちの魅力発信プロジェクト」3 件、計 18 件の活動を実施することが出来た。その中で学生が関わるまちづくり活動は 11 件であった。目標の 5 件以上になったため自己評価を「A」とした。	A
ネットワーク推進事業	地域課題に取り組む活動を行う団体等が意見交換する交流会を年 2 回以上開催し、活動の満足度等を測定する。	本年度は、「キャンパス SDGs びわ湖大会」1 件、「市民活動団体交流プロジェクト」3 件、合計 4 件の取組みを行った。キャンパス SDGs びわ湖大会は、学生・地域団体・自治体等が交流を持つイベントとなった。また、学生の地域連携プロジェクトの中間発表の場としても活用し、約 150 名の参加を得た。「市民活動団体交流プロジェクト」は域内 3 市（3 会場）で開催し、約 2,300 名の参加を得た。交流会としては 2 回以上開催できたことから自己評価を「A」とした。	A

## WG-C

取組事業	活動指標 (KPI)	事業活動状況	自己評価
SDGs をテーマとした共同講義事業および単位互換事業	SDGs をテーマにした共通科目を1科目以上開発する。  単位互換科目受講生を最終年度までに2018年度比で30名以上増加させる。	令和2年度をかけて科目開発を行ったSDGsをテーマとした新規科目「近江で実践SDGs」を環びわ湖大学・地域コンソーシアムの科目として開講し、それぞれの講義を主に5大学の教員が担当した。その結果、プラットフォーム内の3つの大学より25名の学生の受講登録があった。また、本年度単位互換科目、提供科目の受講生については合計80名の参加があった。このため、自己評価は「A」とする。	A
幼・小・中・高校生への学習支援事業  地域内進学促進事業	幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに5件以上行う。  プラットフォーム事業参加校合同で高校生向けの大学説明会を年1回以上開催する。	幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を6件実施した。前年度と比較して1件の増加となった。また、合同の大学説明を行う方策として、特に高校生に向けて「見てもらえる動画」作成に本年度は重きを置いて動画の視聴者数の拡大を目指した。これらにより、KPIを達成したため、自己評価は「A」とする。	A
地域人材活性化支援事業	社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに5講座以上実施する。	社会人等向けの共同教育講座をについて、9講座計画し8講座実施した。また、連続講座を1講座(計4回)、出前講座を1講座(計10回)実施した。また、他に社会人等に向けた教育に関する事業を3つ実施した。KPIの達成に加え多彩な取組を実施する事が出来たため、自己評価を「A」とする。	A
共同FD・SD事業	共同FD/SD研修を年1回以上実施し、最終年度までに各大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上に役立てる。	共同FD・SD研修を4回実施した。また、共同IR事業を1回実施した。また年度内に懇話会及び検討会についてはより効果的な実施方法を検討することとし、年度をまたいだ事業実施を目指している。これによりKPI及び体制づくりの結果により、自己評価を「A」とする。	A